

平成 27 年 5 月 15 日

南の風 128

南部ミニバスケットボール連盟
会長 藤原 敬一

127号の続きです。

11月の全国大会県予選は順調に勝ち抜くことが出来ました。そしていよいよ、全国に繋がる決勝トーナメントです。1回戦、2回戦はジャンプショットが節目でよく決まりました。ディフェンスも関東予選の時とは見違えるような動きを見せ、集中することができました。準決勝では、横浜北部の篠原チームと戦いました。過去何回か当たり、負けたことはありませんでした。しかし思うようにいかないのがバスケットボールです。1Qの出だしてシュートが決まらず、11対2でリードされました。前にも書きましたが、普通はここでタイムアウトです。(11対2になる前に取った方がよいかもかもしれません)私はタイムアウトを取りませんでした。意外と冷静でした。その根拠は、**オフェンスが機能していた**からです。シュートが落ちていただけなのです。「慌ててはいけない」と思いました。ベンチから選手に指示を出しました。ドライブインの指示だったと思います。1本シュートが入ると流れがよくなりました。2Qからはシュートの確率が上がり、後半もリードを保ち危なげなく決勝に進みました。

タイムアウトを取らなくてよかったかどうかは正直わかりません。結果はうまくいったのですが。タイムアウトを取るかどうかは、ベンチを預かる**コーチが判断し決断すべき**です。

いよいよ決勝です。全国大会が懸かります。相手は横浜南部の3強の一角、かなざわチームです。過去、公式戦1勝1敗です。

出だしはリードされます。その後一進一退が続きますが、かなざわチームのリードが続きます。流れを変えたのは、2Q後半のワンプレーでした。7番田中選手のドライブからのダブルクラッチショットです。これが見事に決まり逆転し、後半も安定した戦いで全国への切符を手にしたのです。

この関東予選から全国予選までの一連の流れは成功例なのですが、例え全国に行けなかったとしても、『**全国大会出場**』という目標に向けて**ぶれなかった**ことはよかったと今でも思っています。全国大会県予選までは、いばらの道でした。どうしたらいいのか、心底悩みました。「全国に行くのは無理なのではないか」「何をどう変えたらいいのか」「スキルは？選手のメンタルは？」考えだしたらきりがありませんでした。

そして立て直すために出した結論は、前述した『**ディフェンス**』と『**シュート**』でした。

『**ディフェンス**』が大事なことは今さらいうまでもありません。どんな名シューターでも、どんなに組み立てのよいオフェンスでも、シュートが入らないことはあります。状態が悪い時ほど傷を広げないために、ディフェンスを全員でがんばる必要があるのです。

『**シュート**』はバスケットボールでは必須のスキルです。ただ繰り返し練習したとしても、ゲームで入る保障はありません。しかし、継続しさらに、集中して練習で打ち込まないと決定率が上がらないのも事実です。あの年は、身体能力や運動能力に凶抜けた選手はいませんでした。継続して努力できる選手が多かったように思います。ある遠征試合の決勝では、ペリメタのジャンプショットと0度のロングショットの確率が7割強でした。相手ベンチが呆れていたのを思い出します。